



番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	上の句	下の句	作者
人には告げよあまのつり舟	わたのはらやそしまかけてこぎいでぬと あまつかせくものかよいじふきとじよ	天つ風雲の通ひ路吹き閉ぢよ	つくばねのみねよりおつるみなのがわ 筑波嶺のみねより落つるみなのがわ	陸奥のしのぶもぢずり誰ゆゑに みちのくのしのぶもじずりたれゆえに	君がため春の野に出でて若菜つむ きみがためはるのにいでてわかなかつむ	立ち別れいなばの山の峰に生ふる たちわかれいなばのやまのみねにおうる	わが衣手に雪は降りつつ わがころもでにゆきはふりつつ	恋ぞつもりて淵となりぬる みだれそめにしわれならなくに	乙女の姿しばしとどめむ こいぞつもりてふちとなりぬる	ひとにはつげよあまのつりぶね おとめのすがたしばしとどめん	参議簾		
わびぬれば今はた同じ難波なる	わびぬればいまはたおなじなにわなる	難波潟短き蘆のふしの間も	なにわがたみじかきあしのふしのまも	住の江の岸に寄る波よるさへや	すみのえのきしによるなみよるさえや	ちはやぶるかみよもきかずたつたがわ	ちはやぶる神代も聞かず竜田川	立ち別れいなばの山の峰に生ふる	たちわかれいなばのやまのみねにおうる	立ち別れいなばの山の峰に生ふる	ひとにはつげよあまのつりぶね		
みをつくしても逢はむとぞ思ふ	みをつくしてもあわんとぞおもう	逢はでこの世を過ぐしてよとや	あわでこのよをすぐしてよとや	夢の通ひ路人目よくらむ	ゆめのかよいじひとめよくらん	からくれなゐに水くくるとは	からくれないにみずくくるとは	まつとし聞かば今帰り来む	まつとしきかばいまかえりこん	わが衣手に雪は降りつつ	ひとにはつげよあまのつりぶね		
元良親王	伊勢	いせ	藤原敏行朝臣	在原業平朝臣	ありわらのなりひらあそん	ふじわらのとしゆきあそん	中納言行平	光孝天皇	河原左大臣	陽成院	僧正遍照		